

令和3年度 まちの予算

令和3年度予算のポイント

①「収支改善」	令和2年度で徐々に現れてきた成果を加速させ、住民生活や地域経済に支障をきたさない範囲で収支改善に取り組みます。
②「総合計画の推進」	「第5次まちづくり総合計画」等に位置付けた施策を推進し、「感染症を乗り越え」、「人口減に歯止めをかける」ため、英知を結集し果敢にチャレンジします。

これまで、国や道の施策の効果的な活用を進めるとともに、税の収納率の向上や人材誘致などに取り組んだほか、ふるさと納税額が1億円を超えるなど、改善の成果が徐々に現れています。感染症が長期化し、先の見通しが極めて不透明な状況ですが、本町が持続的に発展するために必要な社会資本整備を推進できる財政基盤づくりに取り組みます。

各会計の予算額

会計名	令和3年度	令和2年度	比較	増減率	
一般会計	37億6,500万円	35億6,500万円	2億円	5.6%	
特別会計	国民健康保険	4億6,280万円	4億6,380万円	△100万円	△0.2%
	後期高齢者医療	5,210万円	5,220万円	△10万円	△0.2%
	介護保険	3億8,730万円	3億7,990万円	740万円	1.9%
	簡易水道	2億2,400万円	2億8,350万円	△5,950万円	△21.0%
	集落排水	1億9,040万円	1億8,570万円	470万円	2.5%
合計	50億8,160万円	49億3,010万円	1億5,150万円	3.1%	

全会計総額は50億8,160万円で、前年度と比べると1億5,150万円増加しています。主な増加要因は、一般会計における産地生産基盤パワーアップ事業補助金や町道滝之町中島1号線道路整備事業の増加などです。

基金(町の貯金)残高見込額は15億2,718万円で、令和2年度末の見込額と比べると、1億7,645万円の減少となります。

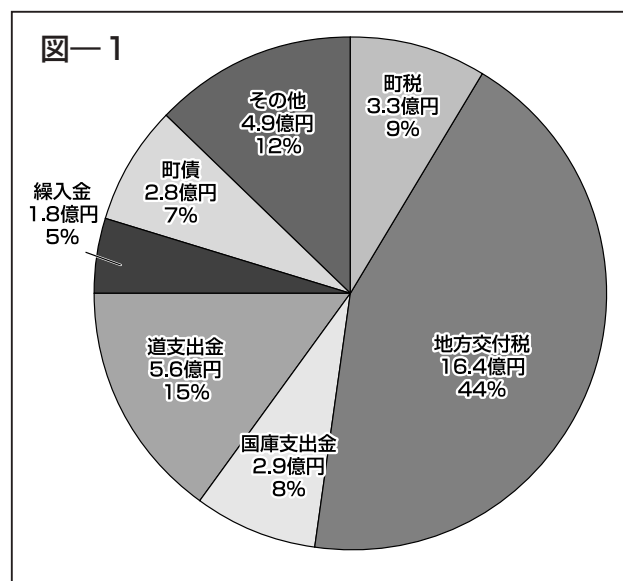
町債(町の借金)残高見込額は45億2,498万円で、令和2年度末の見込額と比べると、1億2,340万円の減少となります。

一般会計歳入

図-1は一般会計の歳入内訳です。町税は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、1億15万円減の3億3,301万円としています。地方交付税は、近年の実績や国の動向、国勢調査人口の減少を踏まえ、2,100万円減の16億4,200万円としています。

繰入金は、町の基金(貯金)からの取り崩しで4,978万円増の1億8,028万円で、財政調整基金の取り崩しは1,000万円減の8,900万円となりました。

町債は、町道滝之町中島1号線道路整備事業の増加などにより、4,650万円増の2億8,160万円の借入れを予定しています。



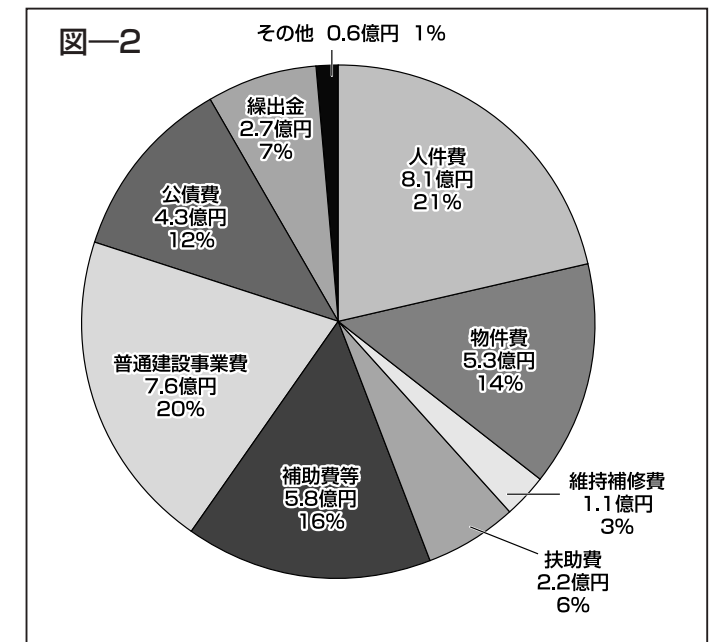
一般会計歳出

図-2は、性質別に分類したものです。職員退職手当組合納付金の減少などにより、人件費は前年度から1,045万円減の8億1,215万円、物件費は前年度から4,436万円増の5億3,227万円としています。

普通建設事業費は、大型事業の増加に伴い、前年度から8,228万円増の7億6,193万円としています。

公債費は、借り入れた町債(町の借金)の返済経費で、5,151万円減の4億3,468万円としています。

返済額は平成25年度をピークに減少傾向にあり、「まちづくり交付金事業」の償還完了などにより減額となっております。

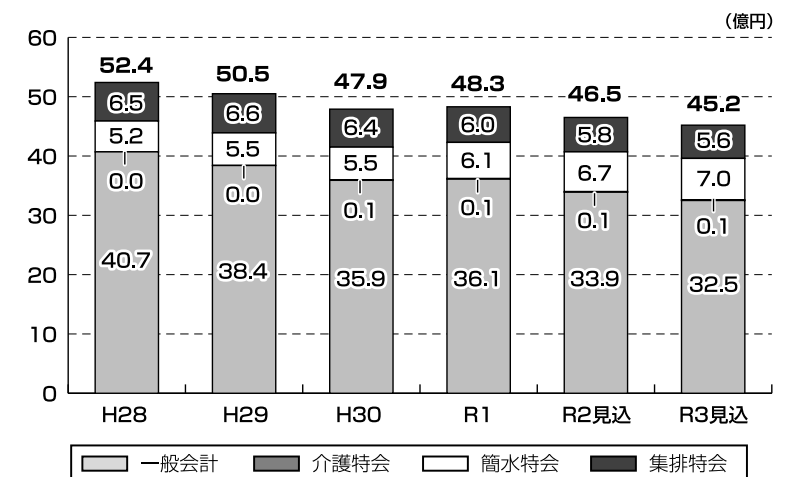


町債残高の推移(まちの借金)

町債残高は、大型事業の抑制などにより減少傾向にあり、一般会計と特別会計を合わせた総額で、前年度よりも減少します。

ただし、簡易水道事業特別会計においては、電気機械計装設備更新事業の増などにより、町債残高は増加することが見込まれます。

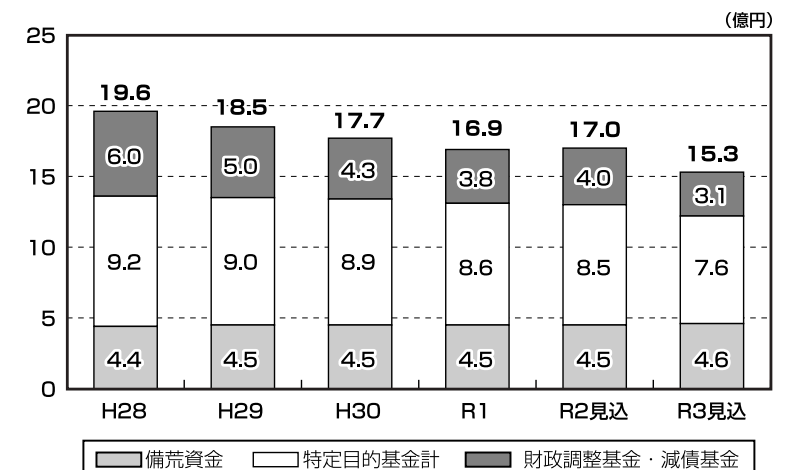
なお、町債の多くは、償還(返済)額の全部または一部が地方交付税として国から補てんされる有利なものを活用しています。



基金残高の推移(まちの貯金)

基金の取り崩しは次のとおりです。

- 財政調整基金 8,900万円
- 特定目的基金 1億2,766万円
- ・ 国鉄胆振線代替輸送確保基金 4,682万円
- ・ 地域振興基金 1,685万円
- ・ 国際交流基金 2,555万円
- ・ ふるさと応援基金 3,638万円
- ・ 森林環境譲与税基金 206万円



【お問い合わせ先】 壮瞥町役場企画財政課財政係 (☎0142-66-2121)